

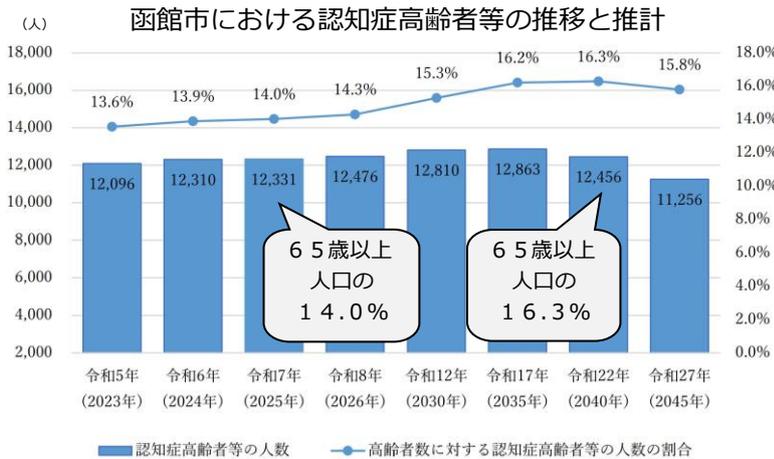
# 1 認知症について

## (1) 認知症は身近な病気

厚生労働省によると、全国の認知症高齢者は、2022（令和4）年は443万人と、65歳以上の高齢者の約8人に1人でしたが、2040（令和22）年には約7人に1人になると推計されています。

函館市においては、2023（令和5）年9月末時点の状況をもとに2030（令和12）年から2035（令和17）年までの認知症高齢者等の人数を推計した結果、更に増えるものと予測されます。

※認知症高齢者等とは、要介護（要支援）認定者（第2号被保険者を含む）の日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態以上と判定された方



認知症は高齢になるにつれて誰にでも起こりうるものです。市民一人ひとりが認知症を正しく理解し、認知症の方と家族が安心して生活できる地域をつくるのが大切です。

資料) 第10次函館市高齢者保健福祉計画・第9期函館市介護保険事業計画(2024年度～2026年度)

## (2) 認知症とは

「認知症」とは、記憶や判断する力が低下したり、時間や人、場所の認識ができないなど認知機能の障がいが起こり、その結果、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態をいいます。

### 加齢によるもの忘れと認知症の違い

誰でも年齢とともに、もの覚えがわるくなったり、人の名前が思い出せなくなったりします。このようなもの忘れは脳の加齢によるものです。

「加齢」によるもの忘れと「認知症」の症状は大きく異なります。

認知症によるもの忘れ	加齢によるもの忘れ
体験の「全部」を忘れる	体験の「一部」を忘れる
「食べたこと自体」を忘れる	「何を食べたか」思い出せない
「約束したこと自体」を忘れる	「約束をすっかり」忘れてしまった
目の前の人「誰なのか」わからない	目の前の「人の名前」が思い出せない
置き忘れ、紛失が「頻繁」になる	物を置いた場所を「しばしば」思い出せない
「ヒント」があっても思い出せない	「ヒントがあると」思い出せる

\* この表はあくまで目安です。あてはまらない方もいます。